

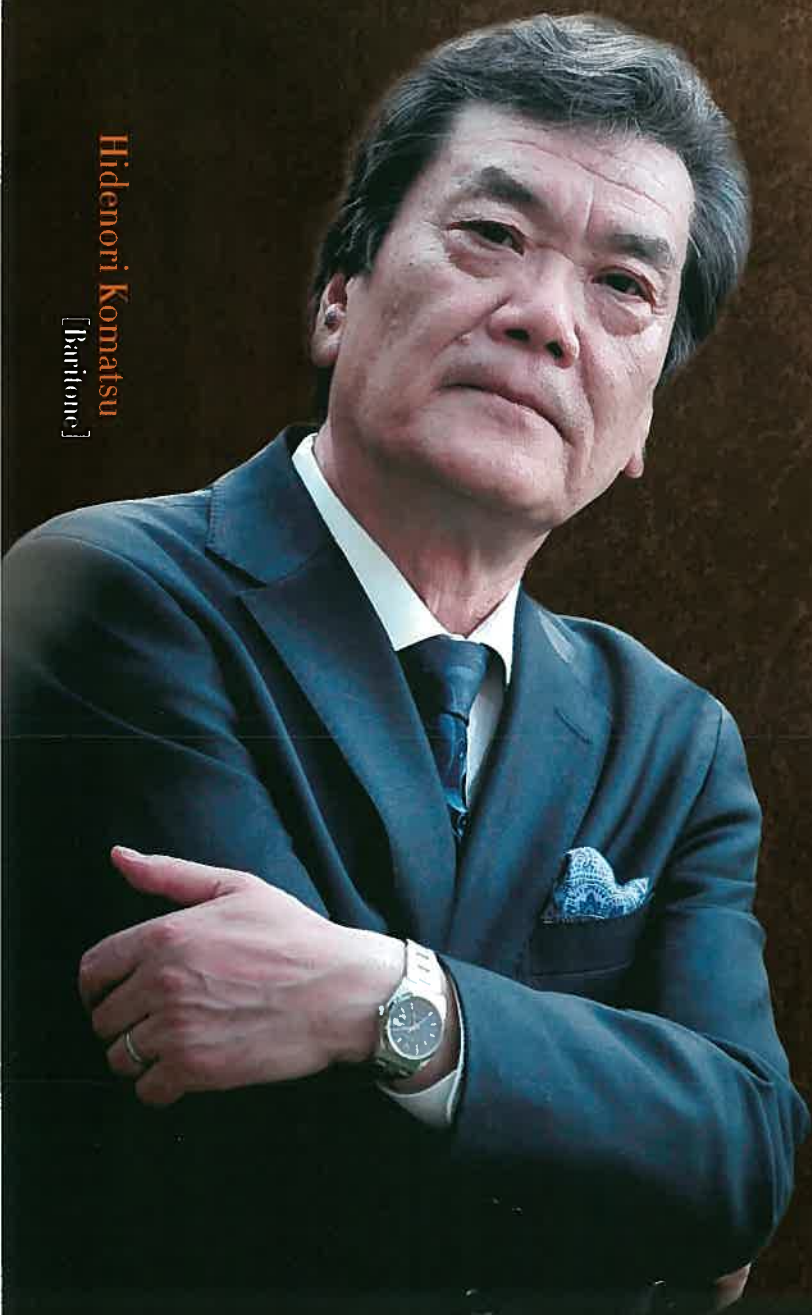
Hidenori Komatsu Liederabend

小松英典 リーダーアーベント

2014.12.10(水)

19:00 開演(18:30 開場)

Hidenori Komatsu
[Baritone]



野平一郎と奏でる、
珠玉のドイツ歌曲の夕べ



Ichiro Nodaira
[Piano]

会場：浜離宮朝日ホール

入場料：S席 5,000円

A席 4,500円(全席指定)

Program

シューベルト / 音楽に寄せて、菩提樹、ます、魔王
シューマン / 献呈 レーヴェ / 詩人トム
メンデルスゾーン / 歌の翼に フラームス / 野の寂しさ
R. シュトラウス / あした ヴォルフ / 時は春、ねずみとり
他

【チケットお問合せ先】 Tel: 090-3042-7818 (内田) Fax: 03-5363-9586 Mail: kaorinduft@hotmail.com

【主催】一般財団法人ドイツ歌曲普及協会 【後援】法相宗大本山 薬師寺



小松 英典 (バリトン)

Hidenori Komatsu

1975 年ハンブルクで宮廷歌手アーノルド・ヴァン・ミルに師事。1976 年リュベック国立音楽大学に入学。宮廷歌手エディット・ラング、ルネ・コロらに師事。1980 年同大学リート・オラトリオ・オペラ科を卒業。1982 年秋、ハンブルクを中心にブラームスの「美しきマゲローネのロマンス」によるリサイタルを行う。翌1983 年1月マドリッドでブラームスの「ドイツ・レクイエム」を歌い、又ドイツ各地でシュベルトの「冬の旅」によるリサイタルを行った。同年4月ベルリンでディートリッヒ・フィッシャー＝ディースカウと共演。その他、アーリーン・オジェ、エリー・アメリング、ハンナ・シュヴァルツ、クルト・モルなど著名な歌手と共演し、ザルツブルク音楽祭などヨーロッパの主要なフェスティバルにも参加している。オペラでもハンブルク、リュベックその他のドイツの名オペラ劇場に客演し、多くの作品に出演している。小澤征爾指揮、1990 年 R. シュトラウス「サロメ」(ヨカナン)、1991 年ブッチーニ「マノン・レスコー」、1993 年ベルリオーズ「ファウストの劫罰」(メフィストフェレス)、1997 年 J.S. バッハ「マタイ受難曲」(イエス)、1998 年ツェムリンスキー「抒情交響曲」、1999 年ベルリオーズ「ファウストの劫罰」(ブランデル)、2002 年ベルリオーズ「レリオ」に出演し絶賛を浴びた。また、1992 年2月に東京芸術劇場にてリサイタル「小松英典 マラーを歌う」を開催、各方面で高い評価を得、1994 年9月に開催したエディット・マティスとのデュオ・リサイタル「シューマンのタベ」で得た絶賛により、ドイツ歌曲の第一人者としての評価を確立した。その後 2000 年11月東京オペラシティ・タケミツメモリアルホールで開催された名匠イェルク・デームスとのシュベルト「冬の旅」リサイタルでは聴衆に更なる深い感動を与え、その評価はいよいよ不動のものとなっている。2002 年2月ハンブルクのムジーク・ハレにおいて、デームスとのリーダー・アーベント「4つの厳粛な歌」を開催し、3月には東京オペラシティ・タケミツメモリアルホールにおいて同プログラムによるリサイタルを行い大好評を博す。2007 年12月31日には大賀ホールにて「軽井沢十二月祭～冬の旅～」にシュミット、ヴァイクル、コルト・ガーベンとともに出演。レコーディングでの活躍も目覚しく、ブッチーニ作曲「喋々夫人」(シノーポリ指揮、フレニ、カレーラス/ドイツ・グラモフォン)、「日本歌曲」(Pf. ガーベン/ビクター、フォンテック)、「世界の歌」(モル、ファスベンダー/ビクター)などを録音しており、ファスベンダーとのデュエットCDはドイツ、フランスでレコード優秀賞を獲得している。最近では、ドイツ・CPO レーベルから E. マティスとのデュエット CD、NAXOS レーベルからマラーのオーケストラ歌曲集(ガーベン指揮、北ドイツ放送ハノーファー・フィル)、シュベルト三大歌曲集、イェルク・デームスとの「ブラームス・リーダー」(実況録音)、R. シュトラウス・リーダー(Pf. ガーベン)の CD をリリースしている。また 2008 年にリリースされた「日本の抒情歌」(Pf. ガーベン/フォンテック)は、心に染み入る名曲・名演奏として好評を博している。2010 年にベートーヴェンとメンデルスゾーンの歌曲作品を集めた CD「An die ferne Geliebte ～遥かなる恋人へ」、そして 2012 年、莊村清志のギター伴奏によるシュベルト歌曲集「美しき水車小屋の娘」、シュベルト歌曲集(4枚組)もリリースされた。今夏7月「バスのためのバッハ・カンタータ Nr.56,82,158」CD を発売され、既に注目の CD となっている。ドイツ連邦共和国認定終身プロフェッサーの称号を授与。ドイツ・ブレーメン国立音楽大学声楽科教授。友愛ドイツ歌曲コンクール審査員。松方音楽賞審査員。

野平 一郎 (ピアノ)

Ichiro Nodaira

1953 年生まれ。東京芸術大学、同大学院修士課程作曲科を修了後、フランス政府給費留学生としてパリ国立高等音楽院に学ぶ。作曲、ピアノ、指揮、プロデュース、教育などの多方面にわたる活動を行う。ピアニストとしては内外の主要オーケストラにソリストとして出演する一方、多くの内外の名手たちと共演し、室内楽奏者としても活躍。古典から現代までレパートリーは幅広い。マヌリヤベンジャミン、松平頼則の作品を世界初演、またリゲティ、武満徹作品他の日本初演を行なう。また東京シンフォニエッタの初代代表を務めた。80 曲以上に及ぶ作品の中には、フランス文化庁、アンサンブル・アンテルコンタンボラン、IRCAM、ベルリンドイツ交響楽団、国立劇場その他からの委嘱作品がある。2002 年に東京でエレキギター協奏曲「炎の弦」をステイーヴ・ヴァイのソロで、2005 年にはドイツでオペラ「マドルガーダ」をケント・ナガノ指揮で、2006 年にはチェロとオーケストラのための「響きの連鎖」を堤剛のソロで、また 2012 年にはパリでサクソフォンとコンピュータのための「息の道」をクロード・ドラングルにより初演。2013 年には日本の現代音楽を紹介する企画によりモスクワで開催された「ザ・シーズンズ国際音楽祭」に招聘され自作品などを演奏した。13 回中島健蔵音楽賞、芸術選奨文部大臣新人賞、第 11 回京都音楽賞実践部門賞、第 35 回サントリー音楽賞、第 55 回芸術選奨文部科学大臣賞、第 44 回、第 61 回尾高賞を受賞。2012 年には紫綬褒章を受章。現在、静岡音楽館 AOI 芸術監督。東京芸術大学作曲科教授。



ドイツ在歴 40 年、ドイツ政府認定終身プロフェッサーの称号を持つ
声楽界の巨匠小松英典による特別な「歌曲のタベ～Liederabend」を
お送り致します。ピアニストにはドイツ歌曲解釈の第一人者、
野平一郎による両氏のシュベルト、シューマン、ブラームスへ
そしてヴォルフ、R. シュトラウスまでの贅沢な夜をご堪能ください。

- 朝日新聞東京本社・新館 2 階
- 都営大江戸線・築地市場駅下車
A2 出口すぐ

